

町民の声を代表して8人の議員が一般質問



美谷 芳昭

今回の質問は、有害鳥獣対策の内、「解体処理施設を整備して、捕獲した猪・鹿肉（ジビエ）を地域資源として活用すべきである」との観点から質問した。

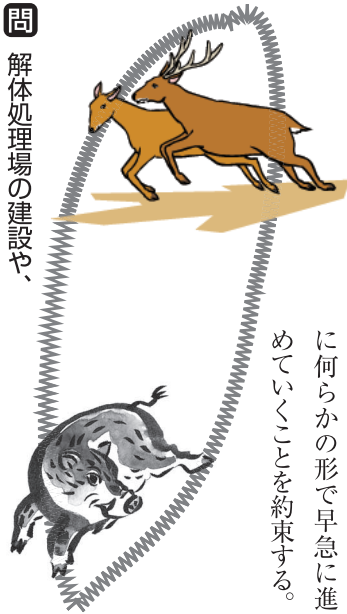
「猪・鹿肉」を地域資源として有効活用を！

問 解体処理後の肉を地域資源として、ホテル、レストラン、物産センター等で活用すべきと考えるが、見解は。

答 時期的なものもあり、コンスタントに肉を提供することは困難と考え、ジビエだけの経営は困難と思われる。

問 解体処理施設の建設や建設用地の検討を行うなど、捕獲鳥獣の地域資源としての有効活用に向けて、町長は本気で取り組む気があるのか。

答 3月中に解体処理施設見学を行い、また、たき台（計画）も町がリードして策定して、前向きに何らかの形で早急に進めていくことを約束する。



問 町長は昨年の12月議会で、「直には困難だが、条件を整えば是非取り組みたい」と答弁されたが、その後、府の担当課とどのような協議をされたのか。また近隣市町との広域処理も考えられるが、検討状況は。

答 府の担当課とは、「建設予定地は町で、施設建設は府で、また運営は大阪府猟友会」の案で協議したが審議未了。また、近隣市町へは府が「解体処理施設設置希望調査」を行った。結果、2市町の参加意向がある。

問 解体処理場の建設や、肉の販売等の市場調査を専門業者に設計・調査委託し、基本計画を策定すべきであるが、見解は。

答 事業主体等、近隣市町との枠組みが明確にならない限り、計画は策定できない。

町長の約束を基に、本町の最重要課題の一つでもある、「有害鳥獣対策」を町は責任を持って早急かつ真剣に課題解決をすべきである。

一般質問



山本 光晴

生きがいづくり

問 生きがいとは、生きていることに感じる張り合いや充実感、それらをもたらし具体的な対象と活動と認識するところである。

まずは、心身ともに健康であることが大切であるとともに、生きがいをもたらす活動に対する知識も必要である。

町においても、生涯学習講座や健康講座などが実施されている。

こういった事業を行った後に、地域等におけるそれぞれの活動に対する行政の支援などについて伺う。

答 すべての高齢者が生きがいを持ち、地域で支え合い、自分らしく安心して暮らし続けることのできるまちを基本理念と

している。住民の生きがいづくりは健康増進や健康寿命を延ばすことにつながるものと認識し、食育ボランティア養成講座や生涯教育講座などを実施している。

自立した活動への支援については、支援内容のニーズ把握も併せて検討の必要があるが、可能な限り応じていきたい。



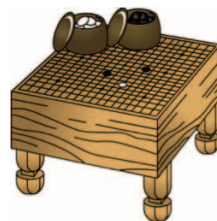
食育ボランティア養成



ウォーキング



いきいき百歳体操



囲碁教室